

都知事選が終わりましたので

東京、朝日、日経、  
毎日、読売、産経

# 都知事選翌日の各社社説

2月9日に都知事選投開票がありました。翌日の新聞各紙の社説から争点の一つでもあった原発に関する部分を抜き出してみました。

では、安倍首相の考えに近そうなところから

## 読売

「東京都知事選 無責任な「原発ゼロ」信任されず」

**非現実的な「原発即時ゼロ」の主張に、多くの都民が拒否反応を示した**と言えるだろう。

(中略)

細川氏は「原発以外の政策は、誰が知事でもそんなに変わらない」として原発を主要争点に位置づけながら、代替電源の柱とする再生可能エネルギーの確保策について具体的に語らなかった。無責任に過ぎる。

原発を代替している火力発電の燃料費がかさみ、電気料金の上昇が続く。二酸化炭素の排出増による環境への影響も心配だ。こうした点を考慮せず、観念的に原発ゼロを唱えても説得力はない。

これに対し、舛添氏は、エネルギーは国の政策との認識を示しつつ、都の再生可能エネルギーの割合を高めると主張した。同時に、子育て支援など身近な課題に力点を置いた選挙戦を展開した。

現実的な姿勢に、都民は期待を寄せたのではないか。

(中略)

安倍首相は、国会で「『原発はもうやめる』というわけにはいかない」と述べ、国民生活や経済活動への悪影響を指摘した。近く決定するエネルギー基本計画で原発を重要電源と位置づけ、

**再稼働に正面から取り組むべき**である。

## 産経

「都知事選 「脱原発」ムードの敗北だ 五輪や福祉への対応を急げ」

(前略)

この選挙で特筆すべきは、「脱原発」を最大かつ単一の争点にしようと、細川氏がいぜん国民に人気の高い小泉純一郎元首相と連携して訴えたものの、広く浸透させることはできなかったということである。

有権者が景気・雇用や社会保障など都政の諸課題を幅広くとらえて判断したことは、選挙結果が如実に示していよう。

2人の元首相が巻き起こそうとした劇場型選挙に都民は乗らなかった。**国政と都政の課題の違いを見きわめ、冷静な選択が行われた**と評価できる。

(中略)

舛添氏は原発依存度を下げていく意味での「脱原発」に言及した。だが、代替エネルギーのメドが立たないまま、即時原発ゼロを唱えることは無責任だとして、細川氏らと一線を画した。

東京は電力の大消費地であり、都民の暮らしや経済を守る上でエネルギーをいかに確保するかという課題は極めて重要だ。

安倍政権は政府の責任で、安全性が確認された**原発の再稼働を積極的に進めていく必要がある**。

## 日経

「東京の活力向上へ舛添氏の責務は重い」

(前略)

細川護熙元首相のように原発の是非を最大の争点に据える動きに対して、有権者は現実的な選択をしたといえよう。

# 毎日

「都知事に舛添氏 原発論戦今後に生かせ」

(前略)

原発政策も争点となる中で自民、公明両党の支援を受けた舛添氏が選挙を制したのは厚い組織票に加え、堅実に手腕を発揮することへの期待の表れだろう。

「都知事に舛添氏 原発論戦今後に生かせ」

(前略)

都知事選では、与党の支援を受けた舛添要一氏も脱原発依存の立場だった。再稼働反対を訴えた細川護熙氏や宇都宮健児氏の得票も含めれば、**再稼働への信任が得られたと安易に考えるのは誤り**だ。

(中略)

再稼働を目指すいくつかの原発で原子力規制委員会の安全審査が大詰めを迎えつつある。審査に合格しても事故は起き得る。リスクと共存しながら、原発をどれだけ動かす必要があるのか。核のゴミ処分をどうするのか。政府には説明責任がある。一方で脱原発派も、代替エネルギー案などを積極的に打ち出していかなければ支持は広がりにくい。都知事選で浮かんだ課題を見つめ、今後の実りある議論につなげるべきだ。

# 朝日

「舛添新都知事 手堅さを選んだ都民」

(前略)

急速な少子高齢化のなか、安心して暮らし、働けて、活気もある東京を、いかにつくるか。都民の大きな関心はそこにあった。6年後の五輪への備えも、大きな課題に違いない。福祉に詳しい大臣経験者の舛添氏なら手堅くさばいてくれると都民は期待したのである。エネルギー政策では、舛添氏は段階的な脱原発依存の立場を取った。原発再稼働に積極的な自民党の強い支援を受けただけに、就任後も「脱依存」を貫けるかが問われる。

(中略)

都民は「原発一本」の単純化に乗らなかった。舛添氏も「脱依存」を掲げ、違いは結局ぼやけた。しかし、**いずれ原発頼みから卒業しなければという考え方は、選挙戦を通じて都民に広く共有された**だろう。

# 東京

「脱原発に耳を傾けつつ 東京都知事に舛添氏」

景気好転の兆しの中で、東京都民は大きな変化を望まなかった。しかし、**再びフクシマを顧みる好機にはなった。その積み重ねが脱原発の灯を広げる。**

(中略)

舛添氏も「原発に依存しない社会を構築する」と主張した。けれども、代替エネルギーの確保を条件とし、原発廃止までの道筋は示していない。再稼働の可否も、国の仕事だとして語らなかった。除名された古巣に支えられての勝利だ。独自路線は難しかったのかもしれない。とはいえ、東京は新潟の柏崎刈羽原発に再建を頼る東京電力の株主だ。再稼働反対の声にも耳を傾けねばならない。民主党政権も、安倍政権も、事故の責任や原発の限界を明確にすることから逃げてきた。今知事選であらためて浮き彫りになったのは、そんな曖昧体質だった。フクシマと身の回りの深刻な課題との板挟みで、苦渋の選択を迫られた都民も多いだろう。

舛添氏も脱原発を公約したのだ。東京流の取り組みを披露してほしい。**都民はフクシマ以前への回帰にお墨つきを与えたわけではない**のだから。

同じ結果からでも、これだけ見方が違ってきます。原発の是非など、これからの生き方を選択するのに選挙は向いていないと思います。国民投票でその1点についてみんなで考えることが必要なのではないのでしょうか？